

空を見上げてみてください。すっかり秋の空になり、青く高く澄んだ空が広がっています。そして、秋の空にはいろいろな雲が姿を現すものです。魚のうろこのように見える「うろこ雲」や、もこもこの羊の毛のような「ひつじ雲」など細かくちぎれた雲が風にのってゆっくりと流れていきます。チャレンジタワーに寝ころんでいた子に「見て、すごくきれいだよ」と声をかけられました。近くにいた子どもたちと一緒に寝ころび空を見つめ、雲の形を連想して楽しみました。子どもたちは、ブランコに乗りながら、高いところに座りながら、よく空を見ているものです。つつい目の前の忙しさに振り回されてしまう大人たちにこそ、このようにほっとした時間が必要なのかもしれません。

カボチャのおなかをのぞいてみたよ！



在園児のお宅からいただいた大きなカボチャ。カブトムシを乗せてみたり、赤ちゃんのように抱いてみたり、みんなで触れて叩いて並べて楽しむことができました。しかし10月まで続いた暑さのせいでしょうか？例年より早く、カボチャのお尻に穴が開き、コバエが飛び交うように…。辺りには、顔をしかめてしまうようなくさ〜い臭いが漂っています。一体カボチャの中は、どうなっているのでしょうか？？？

早く切りたいな〜という気持ちを抑え、子どもが興味を持つまで待っていました。ついに「なんで臭いの？」という声が子どもたちからあがり、いよいよカボチャを切る時がやってきたのです！

さあ、子どもたちの反応は…？



くっさ〜い！

ドロドロ〜

うえっ!!

どうなってるのお？

思わず笑ってしまうくらいの強烈な臭いにいろいろな声があがりました。でも目はキラキラしています。臭いけれど、なんだか気になって鼻をつまみながら集まってくるのです。好奇心旺盛の子どもたちをほほえましく思いました。

もう一つも切ってみようよ！



二つ目のカボチャは、まだ腐っておらず、たくさんの種が収穫出来ました。この違いにほっと胸をなでおろしたり、においを確かめてみたり、食べたらどんな味がするのだろうと想像してみたり、カボチャからいろいろな発見をする子どもたちでした。

コバエが湧き、くさい臭いが漂うということは、カボチャの中がどういう状態になっているのか…もちろん私たちには予想がついていました。でも自然の摂理として“腐る”という状態を子どもたちと一緒に見て感じることも大事だと思い、思い切って子どもたちの前で切ることにしたのです。コロナの影響もあり、ますます消毒・除菌することが当たり前となった世の中で、子どもたちは腐って朽ちていく様子を見ることはほとんどないでしょう。でも自然界のものは全て“腐る”ことで、再び自然に返っていくのです。子どもたちと一緒にその様子を観察し、表現しあえたことに、とても意味があったと感じています。